

昭和 54 年 3 月 20 日

地価調査・基準地の状況（53年）

番 号	所 在 及 び 地 番 並 び に 住 居 表 示	1 平 方 メ ー ト ル 当 り 価 格 (円)	周 辺 の 土 地 の 利 用 状 況
一	豊栄市東栄町 2 丁目 2 番 12	18,000	一般住宅が散在する 新興住宅地域
二	上土地亀字竹ノ通 1991 番 1	17,900	住宅が散在する区画 の整然とした住宅地 域
三	早通北 1 丁目 1545 番「早通北 1—7 —5」	18,500	住宅が散在する区画 の整然とした住宅地 域
四	木崎字尾山 2229 番 13	16,700	住宅が建ち並ぶ区画 の整然とした住宅地 域
五	白新町 2 丁目 3569 番 2「白新町 2— 12—6」	27,500	店舗等も介在する住 宅地域
六	葛塚字下大口 369 番 3 (34 街区 5 番)	20,500	一般住宅が並ぶ住宅 地域
五の一	白新町 3 丁目 3774 番外 1 筆「白新町 3—5—29」	45,800	店舗、事業所等が建 ち並ぶ中規模商店街
十の一	太田字下黒山甲 40 61 番 4 外 3 筆	9,000	農家住宅、一般住宅 が散在する地域
十の二	内島見字村浦 384 番 2	10,900	一般住宅の外、小売 店舗が点在する地域

地価公示・標準地の状況（53年）

番 号	所 在 及 び 地 番 並 び に 住 居 表 示	1 平 方 メ ー ト ル 当 り 価 格 (円)	周 辺 の 土 地 の 利 用 状 況
豊栄 一 1	豊栄市太田字法花鳥 屋甲 5611 番 2 外	19,500	一般住宅、店舗が混 在する住宅地域
2	嘉山字嘉山 594 番 2 (20—11)	18,000	一般住宅が並ぶ新興 の住宅地域
3	太田字法花鳥屋甲 5215 番 2	9,500	一般住宅のほか、空 地等が多い新興住宅 地
4	早通南 2 丁目 2192 番 「早通南 2—6—16」	23,400	一般住宅のほか小売 店舗もある新興の住 宅地域
5—1	葛塚本町 3237 番 7 外	42,000	各種の小売店舗が並 ぶ商業地域
5—2	白新町 2 丁目 3903 番 「白新町 2—4—20」	48,000	駅前の小売商店街
10—1	長戸呂字長戸呂 848 番 1	4,020	小売店舗等も混在す る農家が多い住宅地 域
10—2	浦木字長場村下 2457 番 1	4,670	小売店舗等も混在す る農家が多い住宅地 域
10—3	内島見 25 番	5,700	農村集落で、農家が 多い住宅地域

土地の正しい価格を知る 地価公示と地価調査

国が行なう地価公示と、県が行なう地価調査があります。これらは毎年一回、標準的な土地の適正価格を公表する制度です。

豊栄市内には地価公示の標準地が九カ所、地価調査の基準地が九カ所それぞれ定められています。

公示価格は、国土庁の附属機関である土地鑑定委員会が定めます。委員会は、公示価格決定に当って各標準地について二人以上の不動産鑑定士または不動産鑑定士の鑑定評価を求めます。公示価格は、売り手にも買い手にもかたよらない適正な価格をあらわしています。また、県の地価調査も、この公示価格とともに一般の土地取引の目安です。

（注）昭和五十四年の地価公示標準地は市街地の二カ所が変更される見込みです。

五十三 年間五十八件の届出

国土利用計画法が昭和四十九年十二月に施行されて以来一定面積（市街化区域二千平方メートル）以上の土地の売買等のための県知事への届出が必要とされています。

豊栄市内では、法が施行されてから五十三年末までの間に届け出があった件数は百三十六件で、対象となった面積の合計は四十五畧におよびます。

市内の土地取引動向

市内における土地取引の過去五カ年の動きは、四十九年から五十三年末までに八千二百三十二件、市の総面積の七・三畧に当る五百五十七・九畧の土地取引が行われました。年間の平均では千六百四十六件、百一十一・六畧となります。取得したもの内訳は、五十三年の例では個人が七十二・八畧で全体の六三・七畧をしめ、次いで地方公共団体等が二〇・八畧一八・二畧、法人十三・三畧一・六畧、国等七・五畧、六・五畧となっています。

土地取引件数および面積

年 度	件 数	面 積
昭和49年度	1,816件	146.5ha
50	2,016	119.9
51	1,215	81.2
52	1,306	95.9
53	1,879	114.4
5カ年間の平均	1,646	111.6